Shinpū Books

和城伊勢 WASHIRO Ise

江戸しぐさ 一夜一話

新風舎

浦島太郎こと 故・芝三光氏

江戸の良さをみなおす会・芝三光（会名・浦島太郎）について

国家総動員法で解散させられた〝江戸講〟を惜しみ、昭和二十一年に敗戦の焼跡で（この時十六歳の芝青年は世の中に心の灯！　と固く決心したと語っています）東京の文人墨客がはじめた東都人茶会が前身である。昭和三十年代東京コンシューマーズ・クラブ、江戸商法研究会などの有志も参加して〝江戸新人サロン〟となり昭和四十年〝江戸を見なおすミーティング〟として新会を結成する。そのメンバーであった芝氏が　非公開の〝講〟を公開しようと決意して一般に呼びかけ、昭和四十九年に「江戸の良さを見なおす会」として独立した。約四十年の間〝講〟の必要性を説き続け、杖にもたれ掛かるようにこころの旅路に邁進し、夢を半ばにして一九九九年一月二十二日〝急性胃ガン〟のため逝去されました。今回公開する〝残し文〟は芝講師の想いがどのようなものであったか？　まだお会い出来なかった方々にお目もじが出来るよう、及ばずながら、和城（会名・花鳥旨子）がご案内申しあげます。よろしく願い申しあげます。

その他にＭＲＳ（みちずれリーデング・サービス）・ＢＳＧ（社員教育研修）・店員教育研究所・女性の大学進学のすすめ等の活動につきましては、ご要望がございましたら…何かの機会に発表させていただきたく考えております。

お初しぐさ

「江戸しぐさ」では「はじめまして」というご挨拶はしなかったようです。最初から藪から棒にカチンと思う方のために講師から教わったことを申しあげますネ。人間様の世界では、「ご先祖さまがお世話様になっていたかもしれない」という奥深いわけがあるのだそうでございます。

じゃあどう挨拶すればいいのか？　と私は質問したことがございます。「そのうちにわかります」これが最初の比較文化の始まりでございました。

手にとるようには教えていただけなかったのです。そしてその後どのような態度に出るかを見取り、私に対する方向を決めていたようでございます。

本音は「江戸ッ子になれなかった私」という題名にしようと思いましたが、これまでの悪戦苦闘の結果が現在の私なので野暮なことはやめにしまして、これまで衣・食・住すべてが江戸式の発想で生きていらっしゃった講師の「残し文」をそのまま公開しようと思いたちました。

また最初の方との名刺の交換もしないのだそうです。名刺にはその方の肩書き等々が記載されていますが最初から肩書きから入りますと「三脱の教え」に反するからです…とのこと。「八度の契り」ののちにお互いに交流をはじめるそうです。あらあらむずかしいことなどと思わないでくださいね！　私の肩書きがないからこう書くのではないことは　わかっていただけますかしら？　というわけで「江戸しぐさ」一夜一話が生まれました。

「江戸の良さを見なおす会」が誕生しましたのは昭和四十九年です。私が講師との出会いから八年目のことでした。いかにして私が自立できるか？　という深慮遠望があったとかあとからお聞きしました。しかし期待とは反対に私はお花・お茶・お料理等に精を出し花嫁修業に邁進していました？　「江戸しぐさ」に反抗的でした。講師は最初から承知のごとく力を抜くどころか自分が広告塔になって新聞・雑誌・テレビ出演・出前講等と全力投球「江戸の会」は活動しました。おはがき・レポートは山のようにあります。その中にお仲間の連絡係になっている私がいました。まさしく縁の下の力持ちです！

ときどき閻魔さまのお迎えかな…というはがきやレポートが目立つようになりました。「冗談ばかり言って」と私は笑っていましたが　ガン騒ぎは何度もありましたので本気にしませんでした。花嫁修行の甲斐あって？　私は甘い生活を満喫していました。残念ながらトウトウ講師は入院してしまって帰らぬ人になってしまったのです。ごめんなさい！

謹んでこころよりご冥福をお祈り申し上げます。そして「残し文」が多くの方々に伝わりますよう冥土（竜宮城？）で見守ってくださいませ！　調子の良いお願いでしょうか？

和城伊勢

江戸しぐさ　目次

江戸の良さを見なおす会　芝三光氏について……3
お初しぐさ……4
第1話　江戸の心　目次のこころ……12
第2話　新しい年を迎えまして　…江戸の良さを見なおす会会長　岩渕イセ…14
第3話　第一に《のこしぶみ》として……安藤やち代…17
第4話　江戸ッ子と戒律について……20
第5話　指南番のこし文……23
第6話　江戸っ子の見た芝居……珍眠…26
第7話　お仲間の声……磯野かおり…31
第8話　江戸の良さを見なおす仲間たち……伊磯篦馨…33
第9話　江戸料理と東京料理……城詰音税卓…38
第10話　江戸の心ご在所一覧の心……43
第11話　桃くり三年！……岩渕イセ…48
第12話　新めぐろさんだいばなし……53
第13話　秋……58
第14話　ミミズにおしっこかけちゃダメ！……59

第15話　人・耳・住・「はじめまして」……61
第16話　勝平といわれておこる井蛙っぺい！……63
第17話　楽しいお正月近し！……65
第18話　お年玉……67
第19話　渡世法……69
第20話　ラブ！……71
第21話　Spice Of Life　(1)……73　高瀬有季訳
第22話　Spice Of Life　(2)……77　高瀬有季訳
第23話　Spice Of Life　(3)……81　高瀬有季訳
第24話　「公開講座」　本音で書いた残しぶみ……84
第25話　鐘のなる木さま……103
第26話　廻弟子のしきたり……109
第27話　江戸しぐさ　一夜一話　(1)……116
第28話　江戸しぐさ　一夜一話　(2)……120
あとひきしぐさ……128

江戸しぐさ　一夜一話

第1話

江戸の心　目次のこころ

江戸の良さは自然流。なんとなくできてしまうところが、いいですねえ。木の葉の先から、ポトン、ポトンと落ちる一しずくの水滴が、少しずつ集まって細流（せせらぎ）になり、谷間を縫って渓澗（けいかん）となり、里に出ては小川になり、やがて、（江戸の昔は筏（いかだ）も流されたでしょう）中流に変り、支流は合流して幹流となり、げに一刻も千金の、ながめを何に、たとうべき（瀧　廉太郎の〝花〟でしたか）、春のうららの隅田川、江戸っ子のいう大川になるように、江戸の心も、とうとう、一〇〇ページを越えてしまいました。

上野から千葉に向かう京成電鉄線に、市川真間（いちかわまま）という駅があるようです。その、真間という地名の由来については、例会でも出たようですが、その昔は、アイヌの人たちが、のどかで平和な生活をしていたのでしょう。そのアイヌの人たちと、江戸氏との関係は、これも例会に出ましたので省略しますが、この土地に住みついた人たちが、この土地を、とりわけ水と川を愛したことには変りがありませんでしたでしょう。

鎌倉時代を経て、太田道灌が、江戸氏の館あとの近くに居城をかまえようと思った時、彼は、毎日、川をながめて、その変化を調べ、自然に逆らわず、自然の流れをうまく活かして、人工と天然の要害・江戸城の基礎を築き上げたと伝え聞いています。

江戸城と江戸の町は、自然の流れを上手に利用して、しだいに大きくなっていったのでしょう。雨の一雫も、集まれば、大河となるように…。

江戸の良さは自然流、そうは言っても、三〇〇年近い平和な町をつくるには、自然のなりゆきまかせ、その場かぎりのおっつけ仕事では、とても駄目、そこには、城主と町民たちの、なみなみならぬ努力の積み重ねの歴史があったとか…。

私たちの、この『江戸の心』も、今年のお正月に第一枚を書き出してから十一か月、ようやく今、細流となって、冬枯れの目立ち始めた木木の間を、音を立てて流れてゆく感じです。大川を目ざす水の旅、後世に残す私たちの〝江戸の心〟も、このへんでながめなおして、行き先をあやまらないようにいたしましょう。木を切りたおして、そのままにしておけば、鉄砲水の原因にもなりかねませんから…。

昭和の汚点、太平洋戦争。軍部は、ガソリン不足を補うために、山の松の木を切りたおし、松根油をとったとのこと。枯れた切株には松の材線虫が住みつき、それがカミキリ虫で新しい松の木にうつされ、いま全国の松の木が、その被害に、なやまされているそうです。江戸の人たちは、松の木をいたわりましたが、なぜか、昭和の軍人は、松の木をいじめました。《木を切るは、江戸を切ると思え》昭和の軍人たちは、きっと、この江戸の教えをご存知なかったのでしょう。

第2話

新しい年を迎えまして

江戸の良さを見なおす会々長　岩渕イセ

一九七五年を迎えました。お仲間さん御一同様とごいっしょに、新しい年のご到来を喜祝ぎ、お互いにこの浮世の乗合い船に乗り合わせた不思議な因縁を大切にして参りたいと存じます。皆様　あけまして御芽出度くございます。昨年は、ご協力をいただき感謝申しあげております。ことしも、どうかよろしくお願い申しあげます。

去年、一月十五日、青年の主張全国コンクールのＮＨＫテレビをかけながら、ことし、つまり昨年の抱負を話し合いました。そのなかで、知る義務、知る自由、知る権利、知ら

立ち読みページはここでおわりです。

お立ち寄りありがとうございました。

またのご利用をお待ちしております。

新風舎
立ち読み横丁